

第 1 回検討会議での意見

区分		主な意見
1. 自転車の安全利用に関する課題	(1) 自転車利用に関する課題	① 左側通行は基本中の基本であるのにできていない。自転車は左側通行という認識がない。左側通行を徹底すれば、自転車同士の衝突はあり得ないし、車との接触でも、一時不停止の場合でも右から来る車と道路幅で時間があり、止まれる。その基本を徹底すれば、事故が減るのではないかと思う。
		② 自転車は車両の一つであるという理解がされていない。違反行為を悪いことだと思わずに、平然と繰り返している。
		③ 子供は小さい時から自転車に乗っているから歩道を走る。乗り物に乗っているという感覚は全くなく、歩行者の感覚だから、いつまで経っても歩道を走ったり、ながらスマホなどをしたりしてしまう。 これを直すには、子供だけでなく、親の教育もしなければいけない。小さい時から乗っているわけだから、もう身に付いてしまっている。13歳未満と70歳以上は歩道を走ってもいいというのはナンセンスである。
		④ 自分自身、最近まで自転車は歩道を走るものだと思っていた。「車と同じ場所を走る」ということとその危険性が、もっと明確にイメージできるようになるとよい。 車と同じ道路を走る自転車は、原付と同じようにヘルメットを被るものであるという感覚が浸透しないと難しいのかもしれない。
		⑤ 交通安全教室等に出てこない人達への教育が課題。
		⑥ 歩行者としての安全教育がしっかりとできていない中で、車両に乗っても、交通ルールを守る習慣が身についていない。歩行者時の悪習慣のままに、自転車に乗車したり、車を運転したりということになり、当然のようにその習慣が継続されることになってしまっているのではないか。 義務教育段階、幼保、小学校の低学年、中学年で、しっかりと歩行者教育をしていくことが、自転車の安全利用教育上では、とても重要な意味をもつてくると考えている。
		⑦ 官庁街でも、半分くらいの人ながらスマホをして歩いている。そうした状況を改善した先に、自転車や車の安全利用が進んでいくと思う。

	区分	主な意見
	(2) 学校教育現場に関する課題	<p>① 学校教育現場で、自転車も含めて、交通安全教育の時間を過不足なく取るためにはどうすればよいかが課題。効率的という点も学校にとっては大事。</p> <p>② 小学校段階の教科書では、基本的な交通ルールを押さえるような内容量は、実質2ページ程度でしかない。大した内容が掲載されていない。学校の教職員自体にも自転車の交通ルールに関する知識がなくなっているし、教科書に載っていないから、教える必然性もなくなる。 副読本を使えば、内容もしっかりしており、ルールも書いてあり、授業ができるが、採用は任意で、多くの小学校では採用していない。小学校教育現場で交通ルールを基本的に教える機会が充分で無くなってきている。</p> <p>③ 自転車の並進とながらスマホが中々改善しない。 特に学年が上がるにつれて起こってくる。学校では指導しているが、自分事としては中々身に付いていかないことが課題。</p> <p>④ 交通安全子ども自転車大会を開催しているが、年々参加校が少なくなっている。学校教育現場でも、地域によって温度差がある。</p>
	(3) 交通環境に関する課題	<p>① 大半のドライバーは、自転車は歩道を走ると勝手に思い込んでおり、自転車が車道を走ると「歩道を走れ」と怒りの声が聞こえたりする。</p> <p>② 自転車の安全教育だけでなく、自動車を運転している方に対しても、自転車に配慮するような教育はやっていかないと、せっかく車道に通行空間を作っても、自転車に利用していただけない。</p> <p>③ 道路状況からすれば、歩道通行の方が安全な場所が少ないのが現実である。道交法の規定に対して、現実の道路環境が追い付いていない。</p>
	(4) ヘルメットの着用に関する課題	<p>① 小中学生は、学校の指導もあり比較的ヘルメットを被っているが、高校生になって、ヘルメットを被らなくなるという状況は、子供自身が、危ないから、自分の命は自分で守らないといけないからヘルメットを被っているという自主的な姿勢が育てていないことの表れなのかもしれない。</p> <p>② 小学生は25.9%、中学生は40.8%がヘルメットを着用しているにもかかわらず高校生になると6.1%しか着けていない。駅を経由する高校生は、駐輪場でどのようにヘルメットを確保するのかも考えなければいけない。</p> <p>③ 高齢者や女性はヘルメットにすごく抵抗がある。</p> <p>④ レンタサイクル、シェアサイクルが増えたが、その利用者はヘルメットを被っておらず、そのことを子供に聞かれたときに返答できない。 ヘルメットを被らせるようにするのか、それともシェアサイクルをやめるのか、そこまで考えないといけない。</p> <p>⑤ かっこいい、デザイン性のあるヘルメットがない、あるいは伝わっていない。デザインにユーザーの意見があまり反映されていないのではないかと。</p>

区分	主な意見
2. 効果的な教育手法	<p>① 交通安全教育は、教え込むのはかなり難しいと経験上思っており、研究上も教え込まない方が効果があるということが分かっている。</p> <p>自動車の運転手の教育について、一定の効果があつたのが、ミラーリング法である。これを活用した自転車用の教材として、文部科学省の「安全な通学を考える ～加害者にもならない～」がある。</p>
	<p>② 市民と一緒に自転車に乗って走り、ここが良い、ここが悪いというのを写真に撮って、みんなでワークショップをして、どうしてここが悪いのか、どうしてここが良いのかというのを話し合っ、自転車マップを作成している。自分達で考えてやったことは、100%とは言わないが、90%残る。上から教えるのではなく、自分達から自発的に、ここが悪かったとか言った意見は、絶対覚えている。</p> <p>学校でも、実地訓練はもちろん大切だが、いろんな写真を撮って、自発的に、これがなぜ悪いのか、なぜ良いのかをみんなで考えるようなやり方で行ってはどうか。</p> <p>自分達で知るように仕向ける教育でないと、上からこういうことをやりなさいと言っても、効果がないとは言わないが、その時はよくても、忘れてしまう。</p>
	<p>③ 自転車安全教育指導員が地域や職場でリーダーとなって、自転車の安全指導をしていく人が増えていけば、効率的な啓発ができるのではないかな。</p>
	<p>④ 交番の警察官に、中学、高校生のヘルメット非着用、イヤホン、ながらスマホ、無灯火、並進等の注意を徹底的に行かせたところ、中学、高校生には大いに効果があつた。ただし、大人まで展開することはできなかった。</p>
	<p>⑤ コンビニでレジ袋を使わないというのが、有料化したら一気に進んだ。自転車についても、小さな痛みを伴うような施策があれば、色々と一気に進むのかなと感じる。</p>
	<p>⑥ 輪っかになるバンド型の反射材をお年寄りに持って行って、ハンドルの左に巻いてあげている。そうすると、はっと「あ、左側通行」って思って進路を変更する。目に見える何かがあることで、左側通行を意識する。</p>
3. 取り組むべき事項	<p>① 色々やることはあるが、優先順位として、出会い頭事故防止とヘルメット着用から取り組むべき。</p> <p>出会い頭事故が死亡・重傷率が高いというのは明らかなので、出会い頭を防ぐために、左側通行をする、いざという時のためにヘルメットを被る。出会い頭はやはり頭部の損傷が多い。</p> <p>この際も、左側を走れというのは効果がないと考えている。要は、左側を走った方がいいということに気づいてもらう必要がある。実際に、最も出会い頭事故に遭いにくいのが左側であるということもデータがあるので、その辺りを気付いてもらう仕掛けを何とかしないといけないと思う。</p>

	②	<p>自転車に乗る場合は左側、この1点である程度、事故は減少するように思う。その辺の教育を一つのスローガンとしていただければ、お年寄りにも子供にもわかりやすいと思う。</p>
	③	<p>条例が制定されたことを、いかに県民の皆さんに末端まで、どのような方法で伝えていくのかという枠組みをしっかりと作ることが大事</p>
	④	<p>小学生のうちに、1回は自転車教室を受けて、道路交通法に接することが大事である。子供が家庭の中で育って、家庭の中のルールを親から学ぶが、一歩外へ出れば、初めて接するのは道路交通法である。守らなければいけないルールに、子供のうちに慣れていくと、将来、ハンドルを握った大人になった時に、相手を労わる精神も身に付くのではないかということで、初期の段階でしっかりした交通ルールを身に付けさせることが大事である。</p>
	⑤	<p>自転車は自由で手軽で便利なものであることを尊重しながら、自転車や車を悪者にするのではなく、どのように共存するかを考えなければいけない。</p>
<p>4. ヘルメットの着用促進</p>	①	<p>一宮署では、5校の高校にモデル校として、自転車通学の生徒のヘルメット着用に取り組んでいただいて、200人近くの高校生に被ってもらえている</p>
	②	<p>やりたくなる仕掛けづくりが必要。自転車のヘルメットであれば、自分で選ばせるとか、自分で関与するということが大事だと考えている。かっこ悪い、かわいくないヘルメットは被りたくないのも、自分で選ぶというのも一つ、プロデュースするというのも一つである。自分は大学の人間なので、SNSを使って、若い子達が、自ら関与してヘルメットを被っていくという仕掛けを、仕掛けづくりも含めて考えられないか。</p>
	③	<p>生徒が自らヘルメットを選ぶような形でファッションショーをしてはどうか。</p>
	④	<p>ヘルメットの外側を、自分の好きなものをマジックテープで止めて付けられる、時期に合わせて変えられるものがある。 実際にヘルメットを被ってこういうものがあるというデモンストレーションをやって、実物で皆さんに興味を持ってもらって、着けていただくということをやっいていこうと思っている。</p>